

消費者物価 3.2%上昇

5月食料・宿泊料は9.2%

5月の消費者物価指数(2020年=100)は、値動きの大きい生鮮食品をのぞいた総合指数が104.8で、前年同月比3.2%上昇した。電気代が下がったため上昇率は4月の3.4%から鈍化した。食品や宿泊料の値上がりで、上昇は21カ月連続となった。

総務省が23日発表した。品目別では生鮮食品を除く食料が9.2%上がった。上昇率は前月より0.2%拡大し、1975年10月以来の高水準となった。

品薄が続くタマゴが35.6%上昇し、牛乳やアイスクリームも10%ほど上がるなど乳製品も高

い。菓子や飲料も軒並み値上がりした。

宿泊料は9.2%上昇した。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移り、観光客や訪日客の増加が価格を押し上げた。

一方で電気代は17.1%下がった。政府の補助金が効いているほか、原

油など燃料価格の値下がりも影響している。

補助によって、指数の伸び率を1.0%押し下げる効果があるという。

生鮮食品とエネルギーを含めた総合指数で比べると、米国の5月の上昇率は4.0%。単純比較できないが、日本は3.2%で補助がなければ米国の物価高と匹敵することになる。

6月は大手電力7社が家庭用の規制料金を値上げした。しばらく物価が高止まりする可能性がある。

(米谷陽一)